

第3学年 学級活動（1）指導案

令和3年10月6日（水）第5校時

第3学年1組36名

指導者 工藤 翔平

「主体的に学びに向かう児童の育成」
～自分や友達のことを知り、わかり合える活動を通して～

1 議題

「みんなが楽しめる第2回逃走中プロジェクトのルールを決めよう」

2 議題について

（1）児童の実態

本学級の児童は、主体的に学びに向かう姿が多く見られる。授業では、自分たちで学びのゴール（図鑑を作る、オリジナルの小説を書く、東久留米市のよさを伝えるなど）を決め、主体的に学ぼうとする姿が日常的に見られる。生活面では、4月当初、「先生どうしたらいいですか。」と聞きに来ていた子供たちが、自分で考えて判断して行動する姿が見られるようになってきている。学級の係活動に意欲的に取り組む児童も多い。また、自分のよさや課題を理解し、なりたい自分を目標にして行動に移す様子も見られるようになってきた。「忘れ物が多いから、赤色で分かりやすいように連絡帳にチェックをしよう」や「時間に遅れないように準備をしっかりしておこう」など前向きに自分の課題と向き合い、解決していく姿も見られた。ただ、他者意識がまだ弱いように感じられる。友達のことまで考えた行動は少なく、自分ができていれば大丈夫という意識が根強く見られる。

学級全体で、専科の教室に遅れたり、時間に間に合わなかったりする場合には、子供たちの発案からクラス会議を行ってきた。みんなで話し合い、机の上に時程表を貼ったり、朝のうちに専科の準備をしておいたりするといった対策を考え、実行し、振り返ってきている。

学級集会については、子供たちの発案からプロジェクトメンバーを募り、そのメンバーで企画し、実行に移すという形で月に2度程度の学級集会を行ってきた。プロジェクトには、みんなで仲良くなろうプロジェクトや逃走中プロジェクト、音楽を楽しもうプロジェクト、お絵描きプロジェクトなどがある。

朝の会では、①相談・提案②連絡③いいね！ありがとう！といった流れで行っている。①相談・提案では、プロジェクトの発案やみんなに関する相談が出されている。②連絡では、係活動やプロジェクトからのお知らせが多く出されている。③いいね！ありがとう！では、学級の友達の良いところを見つけて発表ができるようにしている。朝の会で、友達のよさを認めたり、褒めたりすることで1日の良い空気づくりをするとともに、友達のよさを見付ける他者意識を育てたいと考える。

（2）話し合い活動（学級会）

学級会については、学級会の進め方が分からないという子供がほとんどであった。そのため、4月からは教師が主導で学級目標を決めたり、係活動を決めたりした。

学級では、朝の会の相談・提案で行う話し合いをクラス会議とし、クラス会議では時間的に収まらないものを学級会で話し合うこととしている。

司会グループは、司会（2名）、黒板記録（2名）、ノート記録（1名）の役割分担とし、その中から自分が挑

戦してみたい役割を選び、決めて行っている。議題が決定すると、司会グループが集合し、役割分担の確認と掲示物の準備を始め、学級会を開くという手順を踏んでいる。朝の会で行われるクラス会議では、日直1名が司会進行を行っている。

事前に学級会ノートまたはタブレットに自分の意見とその理由を全員が書いていることで、全員が手を挙げて発表することはできるようになったが、全員に聞こえる声の大きさではなかったり、相手意識をもたずに読み上げていたり、発表の仕方にはまだまだ課題がある。毎回の学級会では自分の意見を自分の言葉で伝える経験の場としていきたい。ただし、無理強いするのではなく、あくまで自分の意思で発言することを大切にしていきたい。

話し合いで意見が分かれた時には、自分の意見だけを主張しすぎてしまい、内容を決定することが難しくなってしまうこともある。安易に多数決に頼ってしまう場面も見られる。その都度、多数決以外の解決方法を一つ一つ確認している。

自分たちのやりたいこと、解決したいことを自分たちの意見で決めていく。またそれが結果として学級目標の達成につながっていくという経験を繰り返す。その中で自分の思いを伝えることの大切さや友達の意見を聞くことの大切さに気付かせたい。

クラス会議や学級会とは、民主主義の根本原理である自分の意見を受け入れてもらうために、相手の意見を聞き入れることやより良い考えを共に創出することができるということを体現できるものであると考える。

なお、これまでの学級会での議題と決まったことは次の通りである。

学級会の回数	月日	議題	決まったこと
第1回 (教師主導)	4月8日(木)	学級の会社活動を決めよう	学級の会社活動決定 新聞会社、音楽会社、ドッキリ会社、お笑い会社、クイズ会社、お祝い会社、飾り会社、漫画会社、アンケート会社、ダンス会社
第2回 (教師主導)	5月6日(木)	学級目標を決めよう	学級目標決定 「みんなが明るく、落ち着く3年1組」
第3回 (教師主導)	5月13日(木)	時間を守るための工夫を決めよう	時程表を机に貼り、始業の時刻を意識できるようにする。
第4回	5月27日(木)	みんなが納得できる席替えの方法を決めよう	色々な友達と関わられるようにくじ引きで行う。ただし、自分の落ち着ける場所を選択したい人は選択しても良い。
第5回	6月10日(木)	ハッピー祭りをもっと祭りらしくする工夫を決めよう	祭りらしい飾り付けを行うこと、祭りっぽい曲をかけること。
第6回 (教師主導)	8月30日(月)	学級の会社活動を決めよう	新聞会社、音楽会社、ドッキリ会社、モノマネ会社、クイズ会社、飾り会社、お祝い会社、漫画会社、イラスト会社、ダンス会社、クラス遊び会社
第7回	9月6日(月)	協力できる玉入れの工夫を決めよう	虫取り網で邪魔をする人がいる。得点がプラスになる玉と相手の得点をマイナスにできる玉がある。

第8回	9月9日(木)	みんなが納得できる席替えの方法を決めよう	フルーツバスケットをして、最後に座っていた席の後ろに書かれた番号の席に座る。黒板が見えづらい席になった場合は交換できる。
第9回	9月16日(木)	玉入れのチーム決めの方法を決めよう	
第10回	9月27日(月)	ハッピー祭り2の内容を決めよう	
第11回	9月30日(木)	給食の片付けをできるだけ早くするための方法を決めよう	
第12回	10月6日(水)	みんなが楽しめる第2回逃走中プロジェクトのルールを決めよう	

(3) 議題選定の理由

1学期の最後に「逃走中プロジェクト」の提案で逃走中を行った。その際にプロジェクトメンバーがルールを提案した際には、質問やルール変更を求める意見が多く挙がっていた。「とりあえずやってみよう！」という事で実際に行ったが、反省がいくつか挙がっていた。

学級目標の達成に近付くための学級集会として、第2回逃走中プロジェクトを行いたいという意見が子供たちから出てきている。そこで、提案理由に沿った意見の発表や、決定の仕方を通して、「みんなで決めたことは、みんなで実践する」という経験や前回の振り返りを生かした学級集会を行っていく経験を積み上げていきたい。

そして、自分達で決めたことを準備して実行し、振り返りを行うことで、これからの学級作りや行事にも生かしていきたい。

3 研究主題に迫るための手立て・工夫

【中学年ブロックで研究主題に迫るために、身に付けたい力】

本授業では、振り返り活動での自己評価や個人のめあての振り返り設定により、下線部の力につなげたい。

人間関係形成・ 社会形成能力 (つながる力)	自己理解・ 自己管理能力 (自分と向き合う力)	課題対応能力 (先を見通す力)	キャリアプランニング 能力 (自分をつくる力)
① <u>自分の意見や考えを分かりやすく表現することができる児童。</u> ② <u>友達の良いところを認め、励まし合うことができる児童。</u> ③ <u>友達と協力して、学習や活動に取り組むことができる児童。</u>	① <u>自分の良いところを見つけてことができる児童。</u> ② <u>不得意な事や苦手な事でも進んで取り組もうとする児童。</u>	① <u>自分の力で課題を解決しようとする児童。</u> ② <u>分からないことを図書資料などで調べたり、質問したり、試行錯誤できる児童。</u>	① <u>将来の夢や希望をもつことができる児童。</u> ② <u>自分の夢のために何かを頑張ることができる児童。</u>

(1) 学級会の基本的な進め方についての繰り返しの指導

① 議題の共有化

・学級の時間を使って事前に議題、提案理由、話し合うこと、質問を共有する。

② 司会グループを全員が経験する。

・司会、黒板記録、ノート記録の内、自分が挑戦したい役割に立候補し、役割を決めて行う。司会グループを輪番制にすることで学級全員が年間の中で必ず役割を経験できるようにする。

③ 司会グループへの事前指導

・事前の打ち合わせをする。
・学級会グッズの活用(黒板表示、賛成・心配なことマーク等)する。

④ 学級会ノート、タブレット、ホワイトボードの活用 (人間関係形成・社会形成能力①)

・事前に自分の考えとその理由を学級会ノートまたはタブレットに記入する。タブレットに入力することで一人一人の考えを共有しやすくなると考えた。ホワイトボードを用いてグループでの意見を整理することができるようにする。

⑤ 振り返りの場にてルーブリックの活用 (人自己理解・管理能力①②) (資料1)

・学級会ノートでの振り返りの際にルーブリックを活用し、自分の成長を客観的に振り返られるようにする。

⑥ 適切な終末の助言

・ねらいについての評価、司会グループへの賞賛、本時でよかった具体的な児童の賞賛、実践への意欲付けを行う。

(2) 「まとめる」時間の確保 (人間関係形成・社会形成能力③)

学級会は、「出し合う」→「くらべ合う」→「まとめる(決める)」という流れで展開するが、三つの段階の中で最も重要だと考えるのが「まとめる」段階である。「まとめる」段階の時間をしっかり確保して合意形成を図るために、「出し合う」段階は学級会の事前に行っておく。「まとめる」段階では、安易に多数決に頼るのではなく、それぞれの意見を合体させたり、新しいアイデアを出したりすることで合意形成を図って解決していくことを大切にしていきたい。アイデアを出す際には、一人で考えるだけでなく、ペアやグループで話し合うことを作戦タイムとして取り入れながら集団解決できるようにしていく。

	S (スーパー)	A	B
①発表	提案理由を意識して相手の意見を聴いたり、自分の意見を言ったりすることができた。	相手の意見を聴いたり、自分の意見を言ったりすることができた。	自分の意見を言うことができた。
②くらべる	相手の意見を受け止めて自分の意見を言うことができた。	理由をはっきりさせて自分の意見を言うことができた。	意見は言えなかったが自分の考えをノートに書いていた。
③まとめる	みんなが笑顔になる意見を言うことで本当にみんなが笑顔になれた。	みんなが笑顔になれる意見を言うことができた。	みんなが笑顔になれる意見を考えることができた。
④ 友達との関わり	友達の意見をつなげて意見を言うことができた。	友達の意見を聴いて、はんのうすることができた。	友達の意見を聴くことができた。

資料1 ルーブリック

(3) 場の設定

座席の配置を椅子だけを用いて円形にすることで、コの字型よりもさらに話しやすい雰囲気を作れるようにしている。この形は子供たちと相談し、話しやすいという意見からできたものである。また、学級全体では発表できない場合でも、少人数では意見が言える子供もいる。そこで、司会が全体から意見を聞く際には、状況によって作戦タイムとして、班での話し方やペアでの話し方を選択できるように指導している。班での話し方の際には、ホワイトボードの活用ができるようにしている。

(4) 日常や他教科での取り組み

○良い話し方、聴き方の掲示

学習の際に良い話し方として、自分の意見を分かりやすく伝えたり、理由付きで自分の意見を伝えたりすることができるなどのポイントを掲示することで、話し方の技術が身に付けられるようにしている。また、聴き方では相手の話を最後まで聞くということや、相槌を打ちながら聞くということなどを掲示することで、聴き方の技術を意識して話し方ができるようにしている。

日常的に、「出席者ではなく、参加者になろう」という言葉を伝えている。思いついたこと、分からないことを積極的に伝えることや、発表するだけではなく、良い聴き方を行うことも立派な参加になることを伝えている。

○友達のおよさや友達への感謝を伝える場の設定（人間関係形成・社会形成能力—②）

朝の会で、友達にしてもらって嬉しかったことを「いいね！ありがとう！」として発表している。お互いの頑張りやおよさを認め合うことで、クラスでの居場所作りや円滑な人間関係の育成ができるようにしている。朝の会に行うことで、学級の良い雰囲気づくりを行えるようにしている。

また、サンクスカードを用意し、友達への感謝の気持ちを書いて渡すことで、形として残るようにしている。月に一度サンクスカードをまとめ、キャリアパスポートに入れていくことでよさを認められた嬉しさを積み重ねていくことができるようにしている。

○他教科との関連

【小学校学習指導要領解説 国語編より】

第 2 節 第 3 学年及び第 4 学年の内容

〈知識及び技能〉

○話し言葉と書き言葉

イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

〈思考力、判断力、表現力等〉

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中
心を捉え、自分の考えをもつこと。

オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相
違点に着目して、考えをまとめること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。

イ 質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。

ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。

【小学校学習指導要領解説 特別活動編より】

3 学級活動の指導計画

(8) 各学年において取り上げる指導内容の重点化を図る

ウ 発達の課題を踏まえる

〔第3学年及び第4学年〕

理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活
動内容について合意形成を図り、実践すること。自分のよさや役割を自覚し、よく考えて行動するなど節度
ある生活を送ること。

以上から、中学年の発達段階として、理由を明確にして考えを伝えられることが求められていることが分か
る。また、相手の話を聞くことで共通点や相違点に着目し、自分とは異なる意見を受け入れることが求められ
ている。3年生の段階では、グループなどの少人数での話し合い活動を積極的に取り入れながら、良い話し方と
良い聴き方の指導を行っていく。その上で学級会にて話し合いの進め方を知り、集団で合意形成を図り、実践す
る経験をさせていく。

○行事との関連

子どもまつり、運動会、展覧会などの学校行事において、学級目標を意識させながら取り組むこととする。
友達と一緒に力を合わせて取り組む楽しさやよさを感じながら、達成感や満足感を味わう実践の積み重ねを自
己有用感の高まりに繋げたい。

4 第3学年及び第4学年の評価規準

集団活動や生活への主体的な態度	集団の一員としての思考判断実践	集団活動や生活についての知識理解
みんなで楽しい学級生活をつ くるために他者と協働して取 り組むことの意義を理解して いる。	楽しい学級生活をつくるため に、問題を発見し、解決方法に ついて理由などを比べ合いな がら合意形成を図り、協力し合 って実践している。	楽しい学級生活をつくるため に、見通しをもったり振り返っ たりしながら、自己の考えを生 かし、役割を果たして集団活動 に取り組もうとしている。

5 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
9月28日(火) 中休み	逃走中プロジェクトを中心に関前の反省を行う。	・逃走中プロジェクトの意見をまとめた上で、学級全体に投げかけ反省を共通理解できるようにする。	
9月30日(木) 朝の時間	議題を選定する。 司会グループの役割分担を決める。 議題を全員に伝える。 ☑自分の考えをノートに書く。	・各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。 ・みんなが納得、理解できるような提案理由になるように、提案者も含めて提案理由を練る。 ・学級会全体の見通しがもてるようにする。	【知識・技能】 楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。 (観察) 【思考・判断・表現】 楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法を示すことができている。(観察) 【主体的な態度】 みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。(タブレット)
10月1日(金) 業間の時間	一人一人の意見を確認し、質問を出し合い、学級全体でイメージを共有する。	・全員の意見を踏まえて、話合いの見通しをもてるようにする。	【思考・判断・表現】 議題について自分の考えをもっている。(ワークシート)
10月4日(月) ～ 朝の時間	活動計画を立てる。 話合いの想定をする。 ☑出された意見に対する自分の考えをノートに書く。	・全員の意見を踏まえて、話合いの見通しをもてるようにする。 ・本番の話合いの流れを想定し、意見が出なかったときや、決めるのが難しかったときの進め方を考えられるようにする。	【知識・技能】 基本的な進め方を理解し準備することができる。(観察)
10月6日(水) 朝の時間	今日の流れを確認する。板書や道具の準備をする。	・本番の想定ができるようにする。	

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

話し合いの進め方に沿って自分の意見を発表したり、友達の意見をよく聞いたりしながら、ルールについて合意形成を図り、みんなが楽しめるルールを決めることができる。

(2) 児童の活動計画

別紙参照

(3) 教師の指導計画

児童の活動	指導上の留意点 ☆キャリア教育の視点	★目指す児童の姿と評価方法 ☆キャリア教育で身に付ける力
1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 7 話し合うことの確認 8 話し合い 話し合うこと 「ルールを決めること。」 9 決まったことの確認 10 振り返り 11 先生の話 12 終わりの言葉	○提案理由について、意識できるようにする。 日時：10月12日(火) 5時間目 場所：校庭 ☆聞き手に伝わるように、自分の考えと理由を話す。 ☆友達の考えを頷いたり返事をしたりしながら聞く。 ○話し合いの記録をとり、活動を見守る。 ※以下の時は、指導する。 ・生活指導上、人権問題のあるとき。 ・自治的範囲を超えたとき。 ・ねらいから大きくそれたとき。 ・話し合いが混乱したとき。 ・規律が乱れたとき。 ○司会グループが話し合いを進めるのに困っているときには、全体に声をかけて、進め方の提案を引き出す。それでも解決が難しい場合は教師が助言する。 ☆出てきた考えをまとめ、集団決定する。 ○児童による自己評価を行う。 ○記録をもとに、終末の助言をする。 ○実践への意欲付けをする。	【主体的な態度】 ★司会グループの自分の仕事や話し合いに積極的に取り組んでいる。(観察) 【思考・判断・表現】 ★提案理由に沿った発言をすることができる。(観察) ☆人間関係形成・社会形成能力ー① ★友達の意見を最後まで聞くことができる。(観察) 【知識・理解】 ★話し合いの流れを理解し、話し合いに参加している。(観察) ★自分や友達の良かったところを見つけ、記入することができる。(学級会ノート) ☆自己理解・管理能力ー①②

7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
10月7日(木)	役割分担を決める。 (司会、始めと終わりの言葉、 プログラム、ルール説明と準備など)	
10月7日(木) ～11日(月)	係ごとに、準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各係のやることが分かるように明記することができるようにする。 ・必要に応じて、打ち合わせをする。
10月12日(火)	学級集会の実施と実施後の振り返り。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施前に、提案理由の確認をして、児童が意識して活動できるようにする。 ・実施後には、提案理由と決まったことに沿って振り返るように声をかける。

< 中学年分科会 > 授業を見ていただく視点

- ① ルーブリックの活用は、自己管理能力（①自分の良いところを見つけることができる児童②不得意な事や苦手な事でも進んで取り組もうとする児童）に有効であったか。
- ② 場の設定（円形の席やグループ活動）は自己管理能力（②不得意な事や苦手な事でも進んで取り組もうとする児童）や人間関係形成・社会形成能力（①自分の意見や考えを分かりやすく表現することができる児童③友達と協力して、学習や活動に取り組むことができる児童）に有効であったか。
- ③ 本時の学級会中に、児童の主体的な姿があったか。あったとして具体的にどんな姿があったか。